神奈川・今小路周辺遺跡（御成小学校内）

1 所在地　神奈川県鎌倉市御成町

2 調査期間　一九八四年（昭59）五月～一二月、一九八五年二月～三月、六月～一一月

3 発掘機関　今小路周辺遺跡発掘調査団

4 調査担当者　吉田章一郎・河野真知郎

5 遺跡の種類　官衙跡・中世都市市街地跡

6 遺跡の年代　奈良時代～鎌倉時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

今小路周辺遺跡とは、中世都市鎌倉の中央路若宮大路の西に平行する今小路（今大路）の周辺一帯を指すが、調査地は同路の西側にある御成小学校の校庭部分である。調査地は標高八～九mで、西側に山を負い東方に緩傾斜する山裾低地に存在する。遺構面の標高は、中世で六～七m、古代では五m前後で

（横須賀）

ある。調査地の南五〇〇mの所に旧東海道が走っていたと考えられる古砂丘帯があり、北三〇〇mの所には古代寺院跡の存在を想わせる古瓦散布地がある。

木簡が出土したのは古代官衙跡の柱穴覆土からと、中世井戸の覆土からである。古代官衙跡は二時期にわたる建物跡で、第一期は東に開くコの字形配置の掘立柱建物群（西に正殿、南北に脇殿、東に柵）から成り、第二期は北側に四面廂の大型掘立柱建物、西に総柱建物二棟と長い建物、南に総柱建物（あるいは門か）と長い建物二棟を配す特異な配置から成る。

(1)木簡は、第一期の正殿と南脇殿とを結ぶような南西角地に並ぶ一本柱列のうちの一柱穴より出土した。柱穴は柱が抜取られたらしい埋没状況で、木簡は柱根削片と共に旧柱穴内に廃棄されたものと考えられる。(2)木簡は、官衙建物群より北方にはずれる場所の所属不明の柱穴より出土した。この柱穴も柱は抜取られたようで、木簡は木の葉の小残片を含む埋土中にあった。

中世の木簡(3)(4)は、中世武家屋敷の南外方にある庶民居住区（仮称）の井戸より出土した。この井戸は縦板方形横桟型の井戸枠をもち、掘り込み面からすると一四世紀初頭～前半のものと考えられるが、出土遺物が少く、時期決定が難しい。

8 木簡の釈文・内容

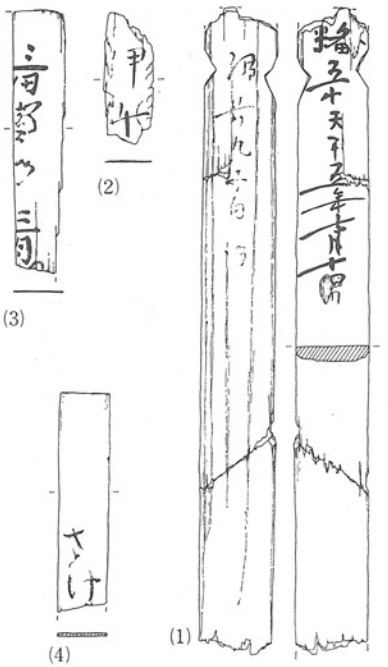
(1) ・「〈糯五斗天平五年七月十四日　(266)×30×6　039
・「〈郷長丸子□□　091
(2) □□　(109)×(21.5)×0.5　061
(3) 「三田□□三月×　(91)×(20.5)×1　061
(4) 「□け

(1)(2)については、国立歴史民俗博物館の平川南氏に判読していただいた。(3)(4)は、折敷板の断片に文字の書かれたもので、類例は市内でも鶴岡八幡宮境内など何ヵ所かで出土している。

9　関係文献

鎌倉市今小路周辺遺跡（御成小学校内）発掘調査団『IN—Ⅲ通信5』（一九八五年）

（河野真知郎）



神奈川・鶴岡八幡宮境内研修道場用地遺跡

1　所在地　神奈川県鎌倉市雪ノ下

2　調査期間　一九八一年（昭56）八月～一九八二年九月

3　発掘機関　鶴岡八幡宮境内発掘調査団（団長・大三輪龍彦）

4　発掘担当者　斉木秀雄

5　遺跡の種類　寺院跡

6　遺跡の年代　一二世紀末～一六世紀

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

鶴岡八幡宮は康平六年（一〇六三）、源頼義が鎌倉由比郷に、前九年の役の戦勝を記念し勧請した石清水八幡宮が前身であり、治承四年（一一八〇）鎌倉に入った源頼朝が現在地、小林郷北山に遷した。

もとは神仏習合により、鶴岡八幡宮寺と称し別当職等も置かれていたが、明治

（横須賀）